京都市学校歴史博物館だより VOL.4

石田梅岩（明倫舎蔵）

～「人の人たる道」を求め，説き，実践した石田梅岩から学ぶものは～

特別展示「石門心学と番組小学校」を開催

［10/5(木)～11/7(火)］

本年は，京都の車屋町御池上がる東側で，石田梅岩がその教えを広めるために初めて開講してから270年となる意義深い年にあたっています。神・儒・仏の三教を融合し『心を知ること』を力説したその学問は，後に「石門心学」とよばれるようになります。民衆にわかりやすい言葉と身近な出来事を通じて比喩的に説いた心学の教えは，当時台頭著しい町人（商人）層に受け入れられて全国に広まりました。

石田梅岩は現在の京都府・亀岡市に生まれました。幼い頃から道徳意識が強く，愚直なまでの律義さが身についていたといわれています。青年期に至り，京都の商家に奉公しながら「自分とは何か」「人間とは何か」などについて考えるようになり，やがて「人の人たる道」の追及が人生のテーマとなったとされます。京都を拠点に，勉学と思索まさに求道者の日々を経て人間性の本質にせまり，悟りの境地を深めていく生き方をつらぬく中で，「心学」を大成した人物です。

明治2年，京都の町衆が中心となって全国に先駆けて創設した番組小学校では，教育の原点を「人の人たる道」に求めました。この精神は，遡れば江戸時代の京の町衆の自治精神や教育観・道徳観の流れを受け継いだものであり，「石門心学」の精神と伝統が京都の人々に大きな影響を与えていたことをうかがわせます。

講座用具一式（明倫舎蔵）

今回の特別展では，石田梅岩の遺品や遺作，彼の教訓を伝える書籍・扁額類の展示をはじめ，講席の場を再現するなど，今の日本の社会や我々のまわりでなおざりにされつつある「人の人たる道」が，どのように説かれ実践されていたのかをご覧いただきます。

これからの教育の方向をお考えいただける機会となれば幸いです。

見る博物館から市民に親しまれる参加・

～学校歴史博物 館は

自由課題研究相談会「自分たちの通っている学校，地域を調べよう」
7/22･23　8/12･27

自分たちの通っている学校や，住んでいる地域の歴史を調べることを通じて，京都の歴史の奥深さを知り，地域を愛する心を育んでもらおうと企画したこの事業は，初日から，親とともに全市から訪れる子どもたちであふれ，熱心な相談会となりました。社会科研究会に所属する現職の先生やOBの先生方が相談員となり，テーマの決め方，調べ方，リポートのまとめ方などの質問に対応。子どもたちは「始める前に動機や調べる方法などをきちんときめること」「インターネットを使ってみては」「おじいさんたちから聞き取りをしたら面白いよ」などとアドバイスを受け，熱心にメモをとっていました。

夏休みの自由課題研究の進め方を質問する小学生ら
（下京区・市学校歴史博物館）

平成12.7.23（日）京都新聞・朝刊から

体験セミナー「千字文に挑戦」　7/29.31

千字文とは，古代中国でつくられ，その後日本でも明治期まで，漢字教育・習字用教科書として使用されたものです。学校歴史博物館で収蔵する千字文の資料を手本にした習字を体験してもらおうと企画したのがこの事業です。小学校・中学校の各書写研究会の先生方の指導の下，腕に覚えのある子どもたちは，はじめての教材にとまどいながらもすぐに達筆を披露。最後に子どもたちは，学校歴史博物館が用意した白無地の団扇に，それぞれお気に入りの文字を書き記し，記念の作品として持ちかえりました。

体験の場へ 多彩な事業を展開〜

学校歴史博物館では，開館以来2度目の夏を迎えた今年，特に子どもたちにより博物館に親しんでもらおうと，夏休みの期間中，子どもたちを対象にした参加・体験型の事業を多彩に開催いたしました。

体験セミナー「日本画運筆に挑戦！」 8/22

かつて番組小学校では，京都独自の学習内容として，日本画の教育を取り入れていました。これは京都の伝統産業である染・織・焼の後継者育成が目的でありました。博物館には明治40年代の小学生の描いたすばらしい日本画の画帳も保存されています。こうした京都の小学校の教育の歴史をふりかえりながら，日本画の運筆を体験し，日頃の美術の授業では使わない画材を使って絵を描いてもらおうと企画したのがこの事業です。こどもたちは，京都市立芸術大学の指導の先生から，わかりやすくしかも本格的な日本画描法の説明をうけた後，午前中は運筆中心，午後から描写・着彩に取り組みました。仕上がった絵画の中には，日本画の趣が十分に感じられる作品が多数見受けられました。

第2回サマーイブニング・コンサート 8/25

昨年はじめて開催し大好評をいただいた夏の宵の情緒あふれるコンサート。

毎年続けて開催してほしいとの要望を多数いただき，ことしも開催する運びとなりました。昨年同様，明治のオルガンの音色を基調に，今年は成徳中学校の生徒たちが浴衣姿で琴の演奏や合唱を披露してくれたのをはじめ，声楽家ののびやかで格調高い独唱，そして「唱歌教室」の参加者と会場とが一体になって歌声を響かせたフィナーレなど，熱気とふれあいの心につつまれたコンサートは去年以上の盛り上がりをみせました。

小学校を維持経営する小学校会社【学校歴史博物館・研究室から】

明治2年，京都の各番組に建営された小学校では，維持運営をどの様にしていくかが大きな課題であった。

小学校運営の基本金として決められた各戸ごとに出す竈金（半季に1分＝1両を約1万円として2500円）は，生活困窮者からは徴収できず，また京都府から小学校建営のために借りた拝借金についても，半額を無利子で10年間の返済でよしとされていたとはいえ，経済的裏付けを整える必要があった。そうした中で，下京14番組が先ずその「仕法」を立て，開校式を挙げた約3か月後に京都府に申し出て小学校会社の許可を受けた。

今に伝わる古文書や記録などから，小学校会社の「仕法」をまとめてみると，会社の資金源は下記3点と思われる。

①，竈金　②，組中有志者の寄付金及び預かり金　③，御備米　①と②で集めた基金を，月1分半（1.5%）の利息で貸付け，預かり金の場合は貯金者に月1分の利子を返す。なかには貸付けが月1分，貯金が月8朱（0.8%）の利息という番組もあった。③の御備米は，京都府より各町内に配分されたもので，それを各町に配り，1石につき利米を月1升取るという仕組みが考えられた。1石につき月1升3合差し出すというかなり高利な利米を取った番組もあった。また，米のまま配った番組もあれば米を現金に替えた所もあった。

さて，こうした利殖で得た収入を，仕法書では，番組によって開きがあるものの下記の様な年予算を立てて運用しょうとした。

①，小学校入費手当　170両から200両　②，拝借金返済（拝借金の5%）　③，窮民助成金　30両から60両　この他，児童への褒美手当，京都府への献金などが予算に盛り込まれた番組もあった。小学校会社の事務は，町会所の機能を持った学校内で年寄が扱った。

この方法について，福澤諭吉は著書「京都学校記」（明治5年刊）に"此法は，ウエーランド氏（1796～1865アメリカの教育者）経済書中の説に暗合（一致）せるものなり"と記述し，今に残る当時使われた金庫や書類箪笥が小学校会社の様子を伝えている。

京都でのみ存在し，番組小学校の維持運営の他，困窮者の助成という番組内の互助機関ともなっていた小学校会社は，やがて教育行政の整備とともに消えていく。とはいえ，両替商が発達していた京都の町衆の経済感覚が，明治維新という混乱した時代に，この様な小学校会社を発案させ，64の番組小学校とその地域経済を切り盛りし，京都の近代教育を支えたのである。

（竹村　佳子）

「上京十二番組会社記」（元小川小学校蔵）
会社の仕法が明記されている。これと同様な文書が各番組にもあったのだろうが現在見る事ができるものは少ない。

これからの事業のお知らせ

特別展示

「石門心学と番組小学校」展

10/5から11/7

ミレニアム講座

「明治初期の教科書で育まれた心」

●3回シリーズ。9/9,10/14,11/11
いずれも午後2時から4時まで

いつの時代においても教育の重要な課題のひとつが「心の教育」。明治の番組小学校においても「人の人たる道」が教育の第一義であった。いま社会でなおざりにされつつある「人の人たる道」が，明治初期の学校でどのように教えられ心を育んでいったのかを知ることで，今日のそして21世紀の教育のありかたを探ります。
（会場：学校歴史博物館・講義室。どなたでも参加できます。入場無料）

第2回　懐かしい歌・唱歌教室

「土曜です。皆で歌の輪を広げよう」

●9/16,10/21,11/18,12/16
いずれも午後2時から4時まで（受付終了）

特別企画

「学校保健の歴史展」10/12から10/20まで

会場：学校歴史博物館・第2会議室。入場無料
学校保健の歴史をパネル器材等で紹介（京都市教育委員会・体育健康教育室・主管事業）

お問い合わせは　京都市学校歴史博物館（TEL344-1305）まで

市民学芸員の声

横浜出身の私が，夫の転勤により京都へきて2年半。京都の事をいろいろ知りたいと思い，博物館ボランティアに参加しました。縁あって，学校歴史博物館の市民学芸員として，お手伝いさせていただいています。

初めて博物館を訪れ，数々の展示品を見た時，『こんなすごい芸術品が小学校にあったなんて！』と驚きました。

京都のこどもたちが，ちいさな頃から素晴しい作品を目にする機会がある事は，とてもうらやましいことです。多くの歴史ある学校文化財をもっと沢山の方に見ていただきたいと思いました。

市民学芸員としては，まだまだ未熟で頼りない私ですが，来館者の方々の懐かしい話や，先生方の貴重な話を伺うことは，とても楽しく勉強になります。

ガイドブックで知る京都とは違う，京都の歴史や奥深さを学ぶ機会を得られたことを感謝するとともに，これからもボランティアとして少しでもお手伝いできるようがんばりたいと思っています。（片田　奈津美）

ひと・まち・ロマン　元気都市・京都

京都市学校歴史博物館だより　VOL.4
■発行日／平成12年10月
■発行者／京都市学校歴史博物館
京都市下京区御幸町通仏光寺下ル橋町437（元開智小学校）
TEL(075)344-1305　FAX(075)344-1327　〒600-8044
■インターネット・ホームページ
http://www.gakurehaku-unet.ocn.ne.jp